



【田淵俊夫記念展示室】

	作者名	作品名	分類・形状	寸法(cm)	制作年
1	田淵 俊夫	緑影（部分）	下図	105×66.5	1972
2	田淵 俊夫	緑影	下図	69.3×54.7	1972
3	田淵 俊夫	遠い思い出 熱国の朝(部分)	下図	119.2×93.5	1992
4	田淵 俊夫	遠い思い出 熱国の朝(部分)	下図	120×93.7	1992
5	田淵 俊夫	灼熱の午後	紙本彩色	四曲一隻屏風	1998
6	田淵 俊夫	時の証人Ⅱ	紙本彩色	200×345	2000
7	田淵 俊夫	旅の窓から 運河	下図	119.5×93.5	1994
8	田淵 俊夫	旅の窓から 運河	紙本彩色	116.7×90.9	1994
9	田淵 俊夫	刻	下図	134×99.5	1994
10	田淵 俊夫	あさがお（部分）	下図	95.7×100.7	1984

田淵俊夫氏略歴：

1941年(昭和16)東京都江戸川区に生まれる。1967年東京芸術大学大学院修了。1968年第53回院展に「ヨルバの神々」が初入選、71年春の院展で「秋宴」が奨励賞(以後6回受賞)、81年には外務大臣賞を受賞。また1971年には第15回シェル美術賞展で佳作賞受賞、78年「安曇野」が第1回東京セントラル美術館日本画大賞展優秀賞、79年「輪中の村」が第5回山種美術館賞展 優秀賞を得る。1982年第1回前田青邨賞、同年第67回院展で「流転」が日本美術院賞・大観賞、83・84年と連続奨励賞、85年には第70回院展で「叢叢讃歌」が2度目の日本美術院賞・大観賞を受賞し、日本美術院同人に推挙。1988年第73回院展では文部大臣賞、94年には「大地Ⅰ・Ⅱ」で第79回院展内閣総理大臣賞を受ける。学生時代は心象風景を描いていたが、卒業後アフリカへ旅し灼熱の太陽のもとで逞しく生きる植物に感動したのがきっかけで雑草を描き始める。その後、大和などの風景を主題とし、80年代に入って再び草花を題材とすることが多くなる。近年は奈良の心象風景、旅窓から見た生活情景のほか、インドや中国、ベトナムなどを題材としている。精緻な線描と緑や青など淡い色彩を特色とする作品は叙情味を帯びて清く澄み、古典的な優美さを醸している。

1996年大三島美術館に田淵俊夫記念展示室がオープン。以後同館で個展開催。現在、日本美術院理事長。

2019年文化功労者、2022年旭日中綬章、2024年文化勲章。